



中部電力パワーグリッド

受変電設備に関する技術サポート

対象設備：66kV級CVケーブル端末

CVケーブル端末の劣化度を 数値化し、改修要否を判断

従来の診断方法

端末内部の欠陥部から発生する極微小な信号を検出。

信号を検出するための常設装置を設置する必要有。

背景・目的

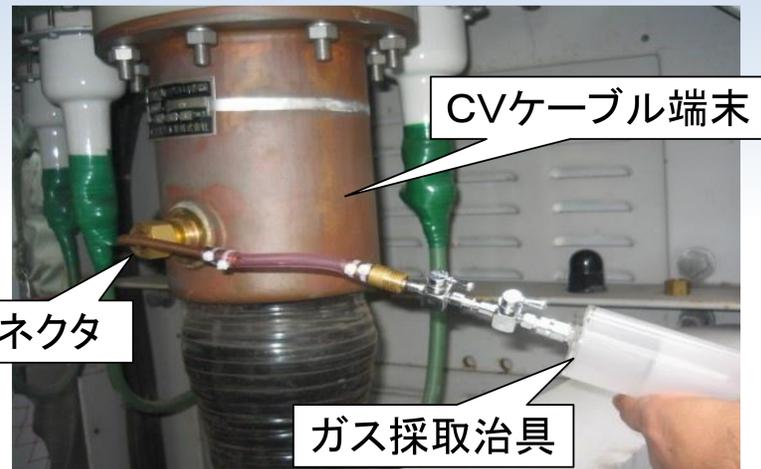
本診断方法

端末内部の空気を採取・分析し、劣化により発生する特定ガスで劣化度を評価。

特長

- 専用のコネクタ※を取付けてガスを採取するので、**非破壊で劣化度を診断**。
- 特定ガスの発生量で劣化度を把握できるので、診断の**評価が定量的**。
- 従来の診断方法と比較して、**診断費用が安価**。

※端末によっては、当初仕様にてコネクタが取付けられているものもあるため、その場合は改めてのコネクタの取付は不要。



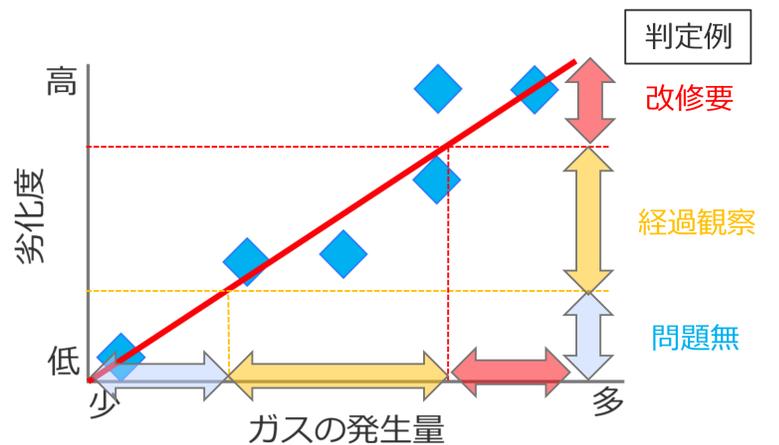
端末内部ガスの採取状況

提案内容

端末内部の空気を採取・分析

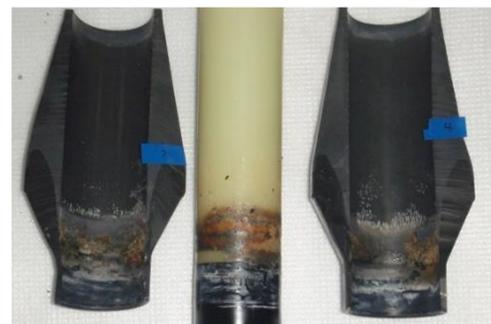
特定ガスの発生量の確認

端末の劣化度を推定



設備更新の判定例

劣化度により端末の改修要否および経過観察周期などを提案いたします。



劣化度が高いと診断された端末の内部状態

展示者の
ひとこと

本技術による劣化診断は、2010年度以降当社設備の内615端末で実施されています。そのうち39端末(6.7%)で異常が発見されており、当該設備について改修を進めてきました。その結果、本診断方法を導入以降、端末部での故障は発生しておらず、適切な予防保全を実現しております。

お問い合わせ先：(Tel) 052-740-6975

(E-mail) Souhenden.Gijyutsu-support@chuden.co.jp